

総務委員会資料

多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業 提案概要について（報告）

令和6年8月1日

文化・スポーツ部

多目的屋内施設整備推進室

〈目次〉

1. 取組方針	3
2. 実施体制・分担	4
3. 資金計画	5
4. 設計・建設業務	6
(1) 全体計画	6
(2) 多目的屋内施設	9
(3) 公園基盤施設	10
5. 運営業務	12
6. 維持管理業務	14
7. 自主事業・その他	14

※本資料は、多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業要求水準書等に基づく、落札者からの提案の一部を、落札者の承認を得たうえで本市がまとめたものです。なお、今後の整備内容は変更となる場合があるほか、図中の既存の樹木や背景は実際のものとは異なる場合があります。

1. 取組方針

Next Park TOYOHASHI

高機能アリーナと都市公園を核とした地域の活性化と持続的成長を実現



「Next Park」とは…
価値あるレガシーが集積された憩いの豊橋公園に「賑わい」「交流」の新たなエッセンスが加わった次世代の都市公園



Next 1 国内トップレベルのスポーツと世界のエンターテインメントを豊橋へ

- ・大型ビジョンなど、最先端スマート技術を活用した新たな観戦・鑑賞体験の提供
- ・国内外イベントと連携した多彩なライブビューイング配信
- ・愛知県新体育館(愛知アリーナ)との連携やアリーナビジネスネットワークの積極的な活用

Next 2 プロフィットセンターへの転換により運営時貴市負担の大幅な軽減へ

- ・高機能設備の常設化やスポーツ・文化双方の価値の高い体験による稼働率の向上
- ・当グループのノウハウを積極的に活用したセールス体制の構築による非貸館収入の向上
- ・愛知アリーナとの連携による運営管理費用・営業費用等の縮減
- ・施設機能・運営サービス向上に向けた再投資の実施

Next 3 豊橋公園の文化を受け継ぎ、市民交流と安全安心の中核拠点へ

- ・広々としたゆとりのある空間を持つ多目的屋内施設と公園が一体となった憩いの空間の確保
- ・県内プロスポーツチームと連携したイベントや多様な教室開催など市民スポーツの振興
- ・災害時の円滑な利用転換が可能な防災機能を有する安心安全なアリーナの実現
- ・豊橋公園活性化協議会設置等、関係団体との連携による公園の活性化

2. 実施体制・分担

○実施体制・分担

企業名等		主な担当業務
グループ名	TOYOHASHI Next Park グループ	
代表企業	スターツコーポレーション株式会社	統括管理業務、運営業務
構成企業	スターツ CAM 株式会社	建築物の設計・工事監理・建設業務
	スターツファシリティサービス株式会社	維持管理業務
	スターツ東海株式会社	維持管理業務、運営業務
	前田建設工業株式会社 中部支店	建築物の設計・工事監理・建設業務、解体・撤去業務、運営業務
	前田道路株式会社 中部支店	公園の建設業務
	エリアワン株式会社	維持管理業務、運営業務
協力企業	株式会社梓設計 中部支社	建築物の設計・工事監理業務
	大島造園土木株式会社	公園の建設業務、維持管理業務
	美津濃株式会社	公園の建設業務
	中央コンサルタンツ株式会社	公園の設計・工事監理業務
	株式会社オノコム	建築物の建設業務
	藤城建設株式会社	建築物の建設業務
	豊橋建設工業株式会社	建築物の建設業務
	サンエイ株式会社 豊橋営業所	維持管理業務

○主要業務担当 4 社の実績

企業名	強み	実績
スターツコーポレーション株式会社	・ 28 件の PPP/PFI 事業実績のうち、17 件で代表企業を務める。	・ 大久保地区公共施設再生事業(千葉県習志野市) 等
前田建設工業株式会社 中部支店	・ 愛知県新体育館、愛知県国際展示場におけるベニュービジネスへの参画を通じた経験・知見。	・ 愛知県新体育館整備・運営等事業(名古屋市) 等
エリアワン株式会社	・ 県内 22 施設の公共施設運営、各種イベント企画制作に携わる。	・ 豊橋市総合運動場等の指定管理(豊橋市) 等
株式会社梓設計 中部支社	・ PFI 実績 40 件超の経験、全国で数多くのアリーナ、スポーツ施設設計の実績あり。	・ SAGA アリーナ(佐賀県佐賀市) 等

○地元企業との連携や地域雇用の創出

- ・建設段階では、地元企業へ積極的に発注します。
- ・維持管理段階においては、警備・清掃業務を地元企業に積極的に発注し、地域経済に寄与します。
- ・地元経済の更なる活性化に貢献するため、維持管理・運營業務等の従事者として積極的に地元人材の採用を検討します。

3. 資金計画

○サービス購入料内訳

(単位：円 税込)

項 目	内 訳			
設計・建設業務に係る費用	サービス購入料 A (一時支払い分)		設計業務（実施設計のみ）、工事監理業務、解体・撤去業務、建設業務に要する費用	19,843,404,900
	サービス購入料 B	サービス購入料 B-1 (割賦元本分)	設計業務、工事監理業務、解体・撤去業務、建設業務に要する費用のうち、サービス購入料 A を除く費用	3,180,689,600
		サービス購入料 B-2 (割賦金利分)	B-1（割賦元本）に対応する割賦支払いに必要な割賦手数料（非課税）	45,905,200
統括管理業務に係る費用	サービス購入料 C		統括管理業務に要する費用	0
運營業務に係る費用	サービス購入料 D		運營業務に要する費用 (光熱水費は除く)	0
維持管理業務に係る費用	サービス購入料 E		維持管理業務に要する費用 (修繕・更新及び光熱水費は除く)	0
	サービス購入料 F		修繕・更新に要する費用	0
	サービス購入料 G		光熱水費に要する費用	0
サービス購入料 合計				23,069,999,700

4. 設計・建設業務

(1)全体計画



豊橋公園東側エリア 外観イメージ

◆【景観・配置】豊橋公園の豊かな緑や起伏を活かし、景観と調和したアリーナを創出

○良好な自然と調和し、心地よい緑が感じられる景観を創出する配置計画

- ・ 既存野球場内に建物を配置することで、周囲の既存樹木をできるだけ活かした建物配置とします。
- ・ 建物の南側に芝生広場とこども広場を整備することで、記念樹や多くの樹木を保全する計画とします。
- ・ 既存野球場芝生席のマウンドを活かし、建設発生土でさらに盛土することで、シンボリックな「集いの丘」をつくります。日常的な憩いの場や遊び場になるとともに、興行時には観客のスムーズなアプローチを可能とします。

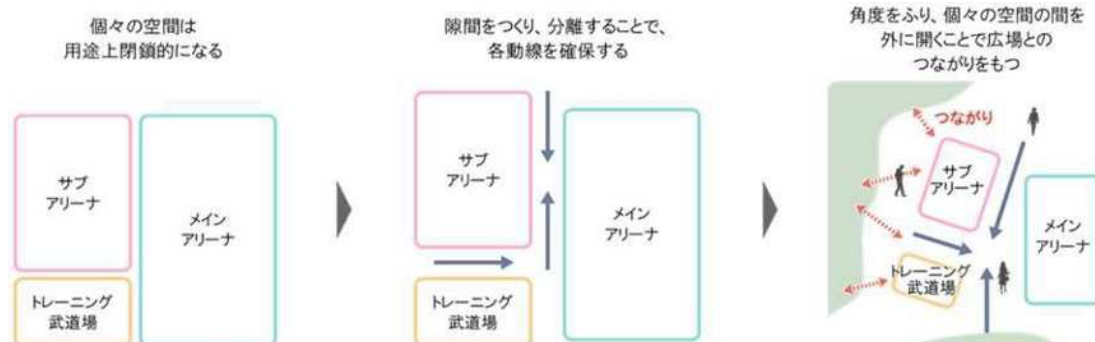
○公園内に回遊性を生み、安心安全を徹底した計画

- ・ 多目的屋内施設はハの字に南側に開いた平面とすることで、利用者を自然と施設内部に導く計画とします。
- ・ 建物中央に「交流プロムナード」を設けることで、公園内の回遊性を創出します。
- ・ 駐車場を分散配置することで、利用施設に合わせて最寄りの駐車場が使用できる利便性の高い計画とします。
- ・ 南側道路からの歩行者のアプローチ動線や日常利用されるランニングコースは、一般車路と交錯が起らないルートを設定することで、歩車分離を徹底した安心安全な動線計画とします。



豊橋公園東側エリア 外観イメージ (北西)

- ・ 適切な照明設備による夜間照度の確保、ストリートファニチャーやサイン、遊具の安全設計等、誰もが安心して公園内を散策し、利用できる計画とします。



○緑と空に映える豊橋らしい外観デザイン

- ・建物の外装は木立や手筒花火をイメージした縦リブの金属板とすることで、周囲の風景を映しこみ、緑や空に溶け込む、風景と調和したデザインとします。
- ・メインアリーナ、サブアリーナ、武道場と3つのボリュームに分節するとともに高さ方向にも分節し、スカイラインを揃えることで、木々のスケールと調和した計画とします。
- ・最も建物ボリュームが大きなメインアリーナ前に「集いの丘」を設けることで、圧迫感を軽減します。



多目的屋内施設 外観デザインイメージ

各アリーナ棟は15m～25mの巨大なボリュームであり、公園にはそぐわない圧迫感が生じてしまう

野球場の芝生席を残置し、盛土することで丘をつくり、緑を豊かにするとともに、建物ボリュームを高さ方向にも分節する

人々の流動性や透明性を確保し、広場とのつながりを創出。さらに建物を分節して圧迫感を軽減する



◆【ユニバーサルデザイン計画】誰もが快適に安心して競技・鑑賞・観戦を楽しめる施設づくり

○段差がなく、フラットな外構計画

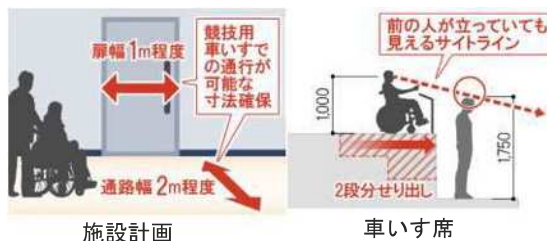
- ・敷地外から建物までの動線や公園内の回遊動線は、雨水勾配程度のほぼ平坦なレベル設定とすることで、段差がなく、誰もが安心安全に行き来できる計画とします。
- ・興行時の観客用エントランスとなるメインアリーナ2階までは、「集いの丘」に設けた緩やかな園路(勾配4%程度)により、車いすやベビーカー等も誰もがアクセスできる計画とします。



多目的屋内施設前の外構平面イメージ

○誰もが観戦・鑑賞・運動を楽しめる施設計画

- ・障害者スポーツの利用に配慮し、通路や扉幅は競技用車いすの通行が可能な寸法を確保します。
- ・車いす席を分散配置することで、多方面から観戦・鑑賞をすることが可能な計画とします。
- ・車いす席は2段せり出した位置とし、前の人が見えてもサイトラインを確保するとともに、誰もが同じサイトラインで観戦することが可能な計画とします。
- ・サイン計画は、グラフィックやピクトグラムの多用、多言語併記により、外国の方でも安心して利用することができるインクルーシブデザインとします。



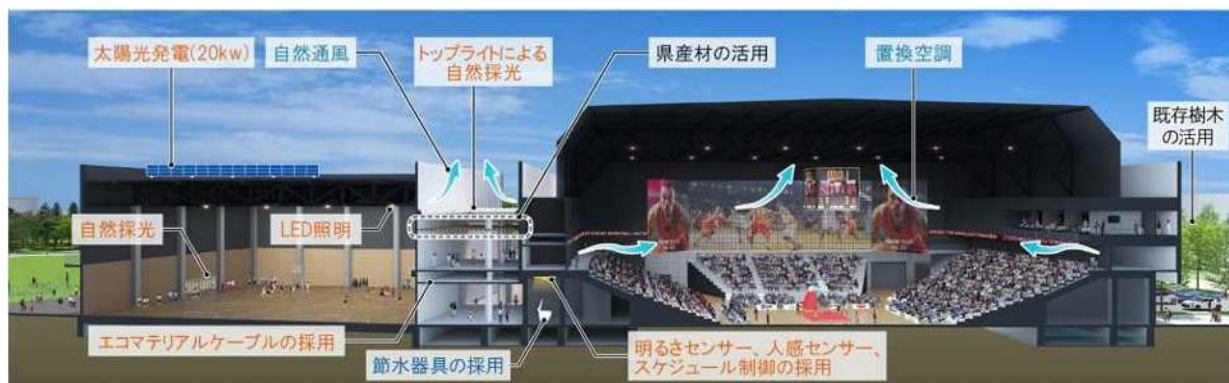
施設計画

車いす席



サイン計画

◆【環境デザイン】施設特性と地域特性に配慮した環境配慮型アリーナづくり



環境配慮型アリーナイメージ

○環境負荷の少ない施設づくりで確実に「CASBEE あいち A ランク」・「ZEB Oriented」を実現

- ・大空間となるメインアリーナやサブアリーナ、武道場等は中央熱源方式とし、小部屋は個別空調とすることで、必要箇所のみ空調を稼働させる無駄のない空調計画とします。
- ・メインアリーナは変風量制御(VAV 制御)＋インバータ制御とすることで、室内負荷に応じた風量制御とし、無駄な空調運転を削減します。

○地場産材の積極的な活用

- ・施設を訪れる人の目に留まりやすいアプローチ部の軒天やホワイエの天井に県産材を活用し、利用者が温かみを感じ、親しみが持てる施設づくりを行うとともに、環境負荷低減に配慮します。



県産材活用イメージ

○長寿命化建築を目指し、修繕や更新の頻度を低減

- ・長寿命化材料の採用や汎用品・高効率機器の採用、耐久性の高い内外装材の選定により維持管理がしやすい計画とします。

◆【防災計画】災害時の円滑な機能転換が可能な安心安全なアリーナづくり

- ・緊急車両専用の動線として、メインアリーナ北側の荷捌き用搬入口及び陸上競技場横にある既存防災備蓄倉庫に近い敷地東側の園路を活用します。
- ・災害時の物流拠点施設となるメインアリーナやサブアリーナに隣接する多目的広場や北側駐車場は、屋外の救援物資等搬入スペースとしても活用が可能です。
- ・メインアリーナやサブアリーナは物流拠点施設として転用が可能なよう、外部から直接大型車両やフォークリフトでの搬出入が可能な計画とします。
- ・災害発生から 72 時間(3 日)分の一時避難や、各種連携を持続させるために必要な電力・水・通信機能を確保できるよう、非常用電源設備を計画します。

◆利用者の安全性の確保や周辺住環境への配慮

○既存公園施設の継続的な運営に向けた対策

- ・施設利用者の歩行動線を工事進捗状況に応じて適切に確保することで、施設利用者の安全性・利便性を維持させます。
- ・工事期間中は施設利用者の車両駐車スペースとして、仮設駐車場を適宜整備します。

○周辺住環境への配慮

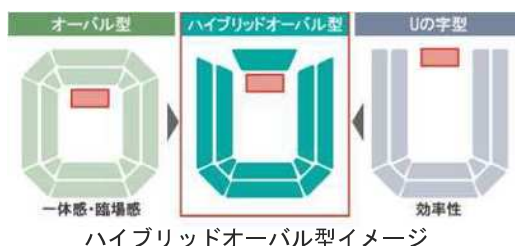
- ・解体時は、二重の防音措置により、騒音を抑制し、粉じんが場外へ流出することを防ぎます。
- ・設計・建設時においては、施設の外壁や屋根に遮音性を持たせ騒音に配慮した構造とするほか、周辺地盤・周囲の建物を調査し、必要に応じて、たてのり等による有害な振動への対策を講じます。また、ナイター照明の設置にあたっては、テニスコート周辺に対して光害とならないように照明器具、ランプ高さ、設置向きを考慮します。
- ・施工期間中は、低騒音型重機を使用することで、周辺住環境に配慮します。

(2)多目的屋内施設

◆一体感・臨場感と高稼働率を両立するハイブリッドオーバル型のイマーシブアリーナを実現

○ハイブリッドオーバル型による高稼働アリーナの実現

- ・囲い型の形状で臨場感や一体感を創出し、スポーツ観戦に適したオーバル型と、コンサート時の見切れ席を最小とし、搬出入の効率性が高いUの字型の特徴を合わせもった「ハイブリッドオーバル型」アリーナとします。
- ・プロスポーツ開催時に5,000人以上の収容人員を確保し、ステージ位置等に対してフレキシブルに変換することで、興行毎に必要な客席数に柔軟に対応します。



○高いホスピタリティを実現する観戦・鑑賞環境

- ・3階VIPエリアには飲食を楽しみながら観戦が可能なスイート・ラウンジと、個室空間となる「VIPルーム」を計画します。収益性を高め、来訪者をおもてなしする空間を提供します。
- ・1階ラウンジはプロスポーツ時にコートサイド席の利用者のみが利用できるラウンジとして計画し、飲食をしながらの歓談が可能な場を提供します。



メインアリーナ 内観イメージ（プロスポーツ）



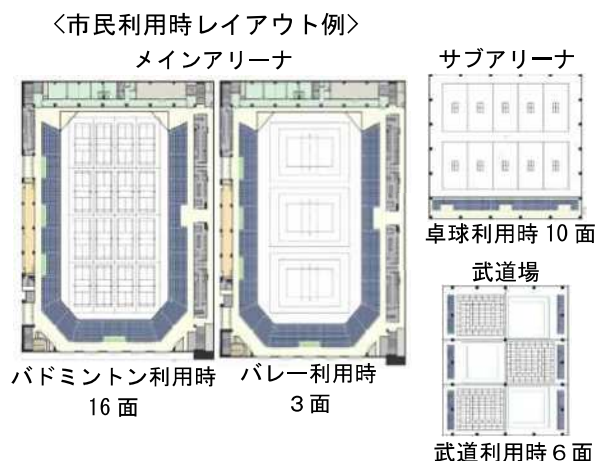
メインアリーナ 内観イメージ（音楽ライブ）

○興行用設備を充実させ興行誘致を促進

- ・想定されるスポーツやコンサート等の興行に求められる大型ビジョン、演出照明、アリーナ内音響については、常設設備のみで十分な演出が可能です。

○市民スポーツ環境の充実

- ・メインアリーナやサブアリーナ等で多様な市民スポーツの利用が可能となります。
- ・武道場は、可動間仕切りにより分割利用が可能となります。
- ・興行開催時も武道場等の市民利用が可能なよう、興行利用者と一般利用者の動線が交錯しない計画とし、同時利用を可能とします。



◆多目的屋内施設の概要(予定)

施設名称	提案概要	
多目的屋内施設	建物規模・構造	・ 建築面積：約 14,049 m² ・ 延べ面積：約 21,188 m² ・ 構造：鉄骨造 3 階建 ・ 最高の高さ：約 25m
	メインアリーナ	・ バスケットコート 3 面利用可能 ・ 観覧席数（固定席、可動席、移動席、立見席等含む） プロスポーツ開催時 5,073 席（バスケットコート中央 1 面） コンサート開催時 5,196 席（エンドステージの場合） ・ V I P ルーム、ラウンジ、売店
	サブアリーナ	・ バスケットコート 2 面利用可能 ・ 観覧席数：208 席
	武道関係諸室	・ 柔道、剣道、空手道、日本拳法など 6 面利用可能 ・ 観覧席数：200 席
	その他の諸室	・ 弓道（近的 12 人立、遠的 6 人立）、アーチェリー（50m）
	その他の諸室	・ 多目的室兼会議室、トレーニングルームなど

(3)公園基盤施設

◆多世代が集い、交流や賑わいが生まれる安全・安心な公園を実現

○景観に優れ建築と調和した憩いの芝生広場

- ・ 芝生広場はアリーナ 2 階のデッキから連続する緩やかな芝生の斜面（1：6 程度）と、その南側に一体的に配置し、拡がりのあるランドスケープ景観を形成します。



「集いの丘」の断面イメージ

○安全に利用できる魅力的なこども広場

- ・こども広場は利用者の安全性を確保し、魅力を高めて多様な交流を生み出すため、遊具は乳幼児用、インクルーシブ用、児童用の３種類に分けて配置します。

○フレキシブルに活用できる多目的広場

- ・多目的広場は芝生広場とこども広場から切り離して配置することにより、独立して賑わいのあるイベントが開催できるようにします。
- ・多目的広場は土系舗装とすることで、イベント時の関係者車両の進入やキッチンカー等の配置等、多様に利用できる仕様とします。



多目的広場の利用イメージ

◆公園基盤施設の施設概要(予定)

施設名称		提案概要
公園基盤施設	多目的広場	・規模：約 9,500 m² ・グラウンドゴルフ、ゲートボールなどのレクリエーションスポーツや多様なイベントが開催可能な独立した広場
	こども広場	・規模：約 2,840 m² ・乳幼児用遊具、インクルーシブ遊具、シンボル性のある児童遊具
	芝生広場	・規模：約 5,740 m² ・「集いの丘」（多目的屋内施設入口前の緩やかな斜面）と平地の広場
	園路	・一部をランニングコースとして利用可能
	テニスコート	・軟式・硬式兼用の砂入り人工芝 16 面 ・観覧席（日除け機能あり） （建築面積：約 141 m² 延べ面積：約 141 m²）
	相撲場	・土俵 1 面（観覧席あり） ・テニス利用者用更衣室及び屋外トイレ併設（多目的ブース付） （建築面積：約 681 m² 延べ面積：約 681 m²）
	駐輪場	・公園利用者用：約 100 台
	駐車場・ロータリー	・公園利用者用（分散配置）：約 400 台
その他		・屋外トイレ 2 棟（多目的ブース付） （建築面積計：約 68 m² 延べ面積計：約 68 m²） ・管理用倉庫（建築面積：約 33 m² 延べ面積：約 33 m²） ・休養施設 5 棟（建築面積計：約 80 m² 延べ面積計：約 80 m²） ・案内板（サイン）、公園照明灯、新樹植樹など

5. 運營業務

◆スポーツ・文化双方の価値を創出し、高い体験価値の提供や賑わい創出を実現

○一般利用のしやすさと満足度を高める施策

- ・メインアリーナとサブアリーナは原則 365 日（メンテナンス等による休館日を除く）利用可能とします。
- ・一般向けの利用料金は同クラスの他施設より低価格に設定することで、利用を促進します。

○公共性と収益性を両立したカレンダー

- ・一般利用に加え、スポーツ興行、音楽イベント、ライブビューイング、地域イベント・企業利用などの催事計画とすることで、公共性と収益性を両立させます。

○愛知県新体育館や他施設と連携した運営

- ・当グループ各社が携わる施設で築いたリレーションを活用し、豊橋市で開催実績のないイベントも誘致します。
- ・愛知県新体育館で開催される人気アーティストのライブや国際スポーツ大会については、ライブビューイングを積極的に実施する等、愛知県新体育館のサテライトアリーナとして活用します。

○インタラクティブ・イベントによる賑わい創出

- ・県内プロスポーツチームや国際大会など、遠方で興行が行われている際も、豊橋公園に来れば現地と同等、そして+α のサービスを付加した観戦環境を提供します。
- ・複数の会場に跨って1つの興行を開催することで、これまでに無いイベントの企画が提供でき、来場者にとっても主催者にとっても魅力的で唯一無二なアリーナを実現します。

◆交通負荷の低減策

○ICT 等を活用した駐車場管理・運営

- ・新設駐車場には、ゲート式の車両ナンバー認証システムを導入します。駐車場出入口に設置する AI カメラがナンバープレートを入出庫時に撮影・読取し、駐車券発行の無いチケットレスシステムであるため、出入口の渋滞が抑制され周辺の交通負荷を軽減します。
- ・利用料金の精算方法は、精算機その他、スマホのアプリによるキャッシュレス決済が可能なシステムを導入し、車中からの精算を可能とします。

○大規模興行イベント開催時におけるアクセス手段及び駐車場利用について

- ・地元公共交通会社と連携を図ります。
- ・興行主と協議のうえ臨時バス運行等を検討します。
- ・公園や駐車場の出入口付近の混雑等により周辺道路へ影響が出ないよう、SPC と興行主が密な連携を図り、誘導及び警備員の増員配置や施設外周辺道路における警備員の巡回を行います。
- ・公共交通機関を最大限活用できるよう、まちなか駐車場及び民間駐車場との連携を図ります。
- ・豊橋駅至近の駐車余地を積極的に活用すべく、パークアンドライド割引サービス等を検討します。
- ・周辺道路の交通負荷を増大させない施策については、交通手段の整理、及び公園駐車場の運用手法を2段階で検証したうえで、豊橋市と協議し運用していきます。

◆公園の活性化とまちなかの賑わい創出に向けた取組

○関係団体と連携した公園の活性化

- ・地元プロスポーツチームと対話を重ね、多目的屋内施設をホームアリーナとして利用いただくことを確認しています。
- ・手筒花火発祥の地である豊橋市の伝統的なイベントである「炎の祭典」や豊橋駅から豊橋公園一帯を巻き込んだ「ええじゃないか豊橋まつり」等のイベント開催を引き続きサポートします。
- ・豊橋公園西側エリアの吉田城址、美術博物館、三の丸会館等と豊橋公園活性化協議会を設けます。相互のイベント情報の提供はもちろん、合同イベントの企画等の緊密な連携を図り、公園全体での活性化を目指し、エリアでの一体的な賑わい創出につなげます。

○まちなかの賑わい創出

- ・大型イベント開催時に、公共交通機関または徒歩での来場者に割引クーポン等を配布して、まちなかでの飲食や交流を促し、まちなかの賑わいや回遊性を生み出す持続可能な仕掛けづくりを行います。
- ・アリーナや公園を起点に、まちなか商店街等を巻き込んだウォークラリー等のイベントの実施を検討します。



まちなかと本施設の回遊性の創出（案）

○スポーツ振興への貢献

- ・アリーナ、トレーニングルーム、陸上競技場、テニスコート等の施設特性を活かしながら、多様なイベント・教室を開催し、市民のスポーツ実施率の向上を実現します。
- ・全ての対象者に同じアプローチをするのではなく、「きっかけづくり」→「再来館」→「定着化」の3つの利用段階を想定した仕掛けづくりを行います。
- ・県内プロスポーツチームと連携した教室・イベントを開催します。
- ・市民がスポーツに触れるきっかけをつくり、その先のスポーツ実施率の持続的な向上や豊橋市のスポーツ振興に寄与します。
- ・様々なスポーツイベントに協賛している代表企業のリレーションを活用し、「する」スポーツの振興やスポーツとの接点増加に寄与するイベントを開催予定です。

○安心安全な利用環境の提供

- ・イベント時に周辺道路に渋滞が起きないように、公共交通機関の使用を促し、徒歩で来場いただくことでの特典の提供、駐車場の予約サービス等を実施する等、混雑が起これないための工夫をします。

○誰もが使いやすい施設

- ・受付場所には、耳の不自由な方へ配慮したコミュニケーションボードや筆談器、高齢者に配慮したルーペ・老眼鏡等を設置し、円滑な対応を行います。
- ・外国人等日本語が十分に理解できない方に配慮して多言語の翻訳アプリを受付に採用します。

6. 維持管理業務

◆安心で安全な施設環境を維持しつづけ、利用者にとって居心地の良い空間を提供

○豊富な業務実績に基づいた維持管理体制の構築

- ・豊富な維持管理実績をもつ構成企業を中心に、統率の取れた安心安全な管理体制を構築します。
- ・豊橋公園の運営・維持管理に精通している構成企業や地元企業と連携し、地域の雇用機会を創出するとともに、地域に根差した実施体制をつくります。

○省資源・省エネルギーによるライフサイクルコストの適正管理

- ・ライフサイクルマネジメントの考え方に基づいて、小修繕によって施設環境の機能回復を図り、高水準の施設機能を維持します。
- ・保守対象の特性に応じて、適切に予防保全と事後保全を選択し、コスト削減と施設の長寿命化を両立させます。

○警備業務

- ・利用者の安全を第一に考えた警備計画に基づいて、有人・機械による 24 時間 365 日の警備を行います。
- ・イベント開催前には主催者の警備プランを確認することで、利用者や地域住民に迷惑をかけないように指導します。

○災害時の対応

- ・災害時は、防災計画に基づき、従事者による利用者への避難誘導等の初動体制を確立し、利用者の安全確保を図ります。
- ・対応にあたっては、豊橋市発信の防災情報や地震・洪水等の災害の種別に即した防災計画書に基づき、リスクを適切に管理します。

7. 自主事業・その他

◆多世代に向けた質の高いサービスの提供と多様な収益化の手法を両立し、常に賑わいを生み出す施設を創出

○多様なスポーツ教室で市民の「する」スポーツを促進

- ・サブアリーナ、陸上競技場、テニスコート等において、幅広い世代に向けたスポーツ教室プログラムを提供し、市民の「する」スポーツを促進します。

○安心安全を確保し、地域に愛される公園を実現

- ・市民の憩いの場として、子ども連れの家族、高齢者、障害者など、様々な方々の利用が想定されることから、公園内における歩車分離を徹底する等、誰もが安心安全に過ごせる環境を整備・維持します。
- ・「豊橋市快適なまちづくりを推進する条例」に準拠し、「530 のまち豊橋」にふさわしい、清潔で快適かつ地域住民に広く愛される公園づくりを推進します。

○利用者のホスピタリティの向上に資する様々なサービス

- ・個人利用から法人利用まで幅広い利用者のニーズを想定し、すべての来場者が「また訪れたいくなる」ようなホスピタリティサービスを提供します。
- ・様々な法人利用シーンを想定したVIPルーム、ワンランク上の観戦体験ニーズを満たすラウンジサービス、よりカジュアルにアリーナコンテンツを楽しみたい方への飲食・物販サービス等を提供します。
- ・特色ある豊橋グルメを取り揃えた飲食店舗を設置します。

○ネーミングライツ等の販売方針

- ・構成企業が代表企業（設計建設時）を務める愛知県新体育館で培ったスポンサーセールスに関する知見・ノウハウを積極的に活用します。
- ・多様なスポンサーニーズに対応するべく、ネーミングライツを含む各種スポンサー商品の設計を行います。
- ・アリーナ本体のネーミングライツを販売します。アリーナ来場者や公園利用者の多くに認知されるよう、施設外部に命名されたアリーナ名を掲出します。
- ・セカンダリスポンサーとして、アリーナのメインエントランス・VIPルーム等を対象とした命名権や、本施設整備に携わるサプライヤーを対象としたスポンサーを募集します。



©2024 Aichi International Arena Corporation
画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

愛知県新体育館イメージ

○その他公園全体の魅力向上等に繋がる取組

- ・フードフェスティバルやマルシェ等のイベントを開催します。市内外から定期的に人を呼び込むことで、賑わいを創出し地域に貢献します。
- ・防災イベントを開催し、地域防災力の向上に努めます。
- ・豊橋の歴史や文化を知ることのできる機会やイベントを企画予定です。
- ・様々なスポーツチームとの連携により、賑わいを創るイベントを企画予定です。